

令和5年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長

木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

1. 生活指導上の基本目標
 - ・ あいさつが出来る ・ 感謝の気持ちが持てる ・ けじめがつけられる ・ 自分のことは自分で出来る
 - ・ 友達のことを思いやる事が出来る
2. 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
 - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜び心を育てる。
3. 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
 - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
4. 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びが工夫できる子に育てる。
5. いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A. 令和5年度に取り組んだ事業の評価項目

項目	内容
1	新ホール(みなるホール)建設
2	旧ホール解体に伴う園庭整備の実施
3	新ホール(みなるホール)1階部分に子育て支援スペース設置。未就園児クラスおよび絵本ライブラリー・おもちゃライブラリーを整備
4	プロジェクトアプローチ型保育の実践本発刊にむけての編集作業の実施
5	教員による自主的研修会の構築

B. 評価項目の設定理由

項目	内容
1	新ホールは令和5年2月着工していたが、令和5年10月31日竣工を目指して工事を実施。
2	旧ホール解体に伴い、南側運動場と東側運動場が一体となり、また新ホール周囲にも新しいエリアが生まれたため、遊具・植栽を含めた園庭東エリアの整備が必要である。
3	新ホール一階には、新しく子育て支援を中心とした二つのスペースを設置したが、それぞれのスペースの環境整備を行う必要がある。
4	数年越しの実践本の企画を実現する為、出版元の決定と出版社 編集部との話し合いを進め、並行して教職員の実践データを取りまとめる。
5	園内外の研修会で、講義や実技指導を「受ける」だけでなく、自ら園内研修を企画し、実施できる力を教員が持てるよう、支援する体制づくりが必要である。

C. 評価項目ごとの具体的目標と取り組み

項目	内容
1	<p>新ホールの工事は順調に進み、予定通り令和5年10月31日に竣工、引き渡しとなった。</p> <p>一階部分には絵本とおもちゃのライブラリー機能と未就園児クラス保育室の二つの子育て支援スペースを持たせ、二階部分には、遊戯室機能を持った広い空間を取り入れたものとした。</p> <p>二階部分には、壁面のすべてに収納機能を持たせるとともに、窓辺に木製の椅子を設ける事によって、フラットで広い活動空間を確保できるようにした。</p> <p>また、「木育」の理念を生かして、ホール内で子どもが触れるものについては、全て天然木の素材を使用した。加えて、一階壁面の一部には土壁を取り入れ、極力人工的な壁紙は使用しない取り組みも行い、「木」と「土」という素材を積極的に建築に取り入れた。</p> <p>また二階には大きな窓面を北南に設け、光と緑を十分取り込めるようにも設計した。</p>
2	<p>旧ホール解体によって、南側運動場と東側運動場が一体で利用できるようになり、広い運動スペースを確保した。加えて、子ども達の運動量を高めるために、東側運動場中央に築山を設け、高低差を作った。</p> <p>また、新ホール西側斜面を中心に、建物周囲全面に渡って新しく緑のスペースを作った。さらに築山にも将来の緑の木蔭が出来る事を願い植樹を行った。すべての植樹に当たっては、常緑、落葉、果樹、木の実が付くもの等を考慮し、子ども達の自然体験が豊かになるようにした。</p> <p>加えて植樹に当たっては、子ども達のみならず、教職員、保護者の方など、幼稚園に関わるすべての人々の手によって行うことが出来た。</p>
3	<p>新ホール一階には、子育て支援事業の中核となる機能を持たせるため、半分のスペースには未就園児クラス(ナースリー)の部屋を整備し、二歳児に見合った環境作りを行った。</p> <p>残り半分は絵本とおもちゃのライブラリーを作り、親子教室に使えるよう、カフェコーナー・授乳室も設置した。ホール竣工直後の11月から、絵本とおもちゃのライブラリーに入れる良質の絵本とおもちゃの選定を行い、また図書館用の管理ソフトを取り入れ、絵本とおもちゃ全てをデータ化して貸し借りの管理が出来るように、新しいシステム構築の準備を開始した。(システム整備は令和6年度に完成予定。親子教室も令和6年度より開始の計画)</p>
4	<p>以前より企画が進んでいた実践本は、出版元が大手の(株)Gakkenと決まり、編集部との編集作業が開始できた。章立て構成が決まり、中心となる学年別の実践記録、クラス担任と園長へのインタビューなどが行われた。出版予定は令和6年10月と決定した。</p> <p>いよいよ木の実幼稚園のプロジェクト型保育が一冊の本となって、全国に発信できるようになった。</p>
5	<p>各クラスでのプロジェクト型保育の実践発表が、実践交流として園内研修で長年行われる中で、教員が自ら研修を企画し、自ら実施できる力も育ってきた。その中で、令和5年度はおもちゃライブラリー選定担当委員が中心となって、良質なおもちゃと保育環境づくりをテーマとして、園内研修会を自ら企画、実施することが出来た。これが、今後定期開催となることも決まり、教員の主体的取り組みがより一層進むことで、質の高い保育の実現につなげていきたい。</p>